眞情實景。直從肺腑中流出來者。文有波瀾。有曲折。有轉合。令吾感激嘆賞。不忍釋手也。

丁酉紀元節前一日　吾醒廬主人妄評

隨蒐錄（第六）

靈芝記

東京　竹南　岡崎　壯

片嶺芝園

片嶺君恕卿篤行而好學。居於熊本城北巖之鄉。庭有朽木異菌生焉。其色紫黃。香氣氛氳。及長卽芝也。君喜以爲祥。夫芝之爲祥古今所稱也。好奇者遠搜之深山幽谷。亦不易得。而今君得之於咫尺庭園。其祥之固宜矣。然所謂祥與不祥則事物之變耳。何必關於人。君子修德而不怠焉則祥不足喜。不祥亦不足憂也。不然事物之變固不可測。而人每爲之喜憂則將何以堪其煩乎。果然則芝之生竟不足喜也。曰豈夫然。志曰。芝瑞草也土氣和則生。傳又曰。德至於草木則芝草生。不知君所居土氣適得其和耶。抑亦君德能至於草木耶。吾聞君力學不懈善事其親。則寧知其在此而不在彼邪。昔者太邱陳子學文而好奇。芝生於庭。乃作閣而藏之。王荆公爲記之。見今世無復能文如荆公者。是爲可憾也。然可爲君喜者。不在芝而在所以致之。其記與不記固不論而可也。嗚君亦當益勉修其德以不負於此芝。而祥始得爲祥也。

呈芝園片嶺君

米原　克　耕

吾聞佳瑞應禎祥。積善多年豈莫徵。果矣庭園產芝艸。正知家運到隆昌。

祝言

硯友會員　中内蝶二

夫れ王道の德は子民稼穡の土器より開け、民の煙りは父君心躰の恩火よりにぎはふとかや。地の東西と時の古今は問はずもあれ、成敗の道はこゝに明かなり。わが豐芦原の瑞穗の國は、南琉球北千嶋、廣袤僅かに二萬方里、支那降服の引出物に、臺灣嶋は得たりと雖、地圖の上にて之を見れば、豆より小さき孤嶋に過ぎず。さはいへ、孤蟹にはかられ、仁王菩薩の門番たり。小なりといへども侮るべからず。大なりと雖恐るるに足らず。わが敷嶋の大和心は、輝く旭に櫻と匂ひ、夷狄をはらふ刀と閃めき、千早ふる神代のむかゝより、明らけく治まる御代の今に至るまで、君のめぐみの露深くして、民のまごゝろ海に溢れ、父の慈愛の恩高くして、子の孝行は山をも拔く。開闢この方三千載、四海浪靜ろにして時津風枝をならさず。碧眼の毛唐人も尻に餅つき、豚尾の罌粟坊主も舌を卷けり。かゝるいみじき國なれば、吉祥嘉瑞時にあらはれ、天は有德の人にむくゆるぞかし。昨は黃海の波上に靈鷹を得、今は君が庭中に靈芝を得たり。彼は我皇の威德により、是は君が令德による。而かも靈鷹已に支那降服の嘉兆たり。知らず靈芝何の瑞相ぞ。思ふに、德あれば必らず壽あり、靈芝卽ち靈子に通ず。遐齡松栢と茂を爭ひ、異日門庭光輝を生じ、永く折桂の高風を傳ふるの英物出でんこと、龜を鑿り蓍を數ふるよりも明かなり。めでたし〳〵〳〵と申す。かしこ。

靈芝はめてまた一杯をかさねけり。